令和4年度　社会福祉法人 協愛福祉会
施設自己評価表

（保育理念）
Happy+Natural
Happy+challenge

（保育目標）
げんきな子　やさしい子
がんばる子　ゆたかな子

A：よくできている　　B：わりとできている
C：一部改善が必要　　D：改善しなければならない

	内容	評価	現状・課題
保育目標について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	少しずつ理念を理解し、実行しようとしているが、まだまだ難しいようで、悩んでいる職員も多い。 子どもの人権については、今年度は考える機会が多く、振り返りも行っていったが、無意識に大人都合になってしまっていることもあった為、気をつけいていく。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切にした保育をしている	C	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	C	

保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	子どもの意見を尊重する保育活動を心がけていたが、環境構成が不十分で、1年を通して変化が少なかった。 生活の流れに関しても、どうしても大人都合になってしまう部分があったので、今後は一人ひとりに寄り添った保育ができると良い。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	B	
	(3)素材・用具を適切に使用している	C	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	C	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	C	
	(6)1日の流れ（デイリープログラム等）は現行でよい	C	

食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	C	後半、食育の楽しさに気付き、少しずつ楽しめるようになってきた。しかし、計画性が無く準備がバタバタになることが多かったので、今後は計画的に進められるようにしていきたい。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	C	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	B	

役員構成 役割分担 研修	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	C	行事や係の仕事など、誰かがやるだろうと人任せになっている事も多かった。一人ひとりが園の事は自分の事として考えられるようになると良い。 研修は計画的に行えたが、法人や園内研修の欠席者が目立ったため、法人の一員として、研修に参加することの大切さを今後伝えていく必要がある。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	C	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	

保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	B	個人面談や参観ウィーク等で、子どもたちの様子を見せたり話したりすることができたため、保護者への発信は昨年よりはできているつもりでいたが、伝わっていない事も多かったようで、誤解を生じることもあった。今後は法人の理念や園としての思いをもっと保護者に対して発信し、また、子どもの活動をタイムリーに発信していくことを心がけていきたい。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	B	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きっずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	C	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	B	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	B	

開かれた保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	C	BOP(学童)の見学に行くことはできたが、小学校と直接交流することは出来なかった。コロナも落ち着いてきているので、今後は交流できるようにしていきたい。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	B	

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	D	見学者に来た人に対してインスタの紹介をするなど、園の事を園外の人に発信することはできた。しかし、交流の場となるようなことはできていないので、少しずつ行っていきたい。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	B	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	B	

総合的な現状と課題

幼児クラスで選択保育が行われるようになり、子どもたちも異年齢児と遊ぶことを楽しんでいた。今後も子どもたちが自分で考える、選ぶという経験をたくさん出来るようにしていきたい。
今年も休みの職員がいれば協力するが、それ以外はクラス単位で活動しようとすることが多く、いつでも協力し合うという感じではなかった。（楽しい事も、大変な事もクラスだけの事になっているように感じる。）
行事等に関しては、保護者を園に呼ぶ機会も増え、少しずつだが出来ることが増えているので良かった。しかし、ただ見せるだけだは伝わらない事も多いので、どんな意味があってその活動が行われているのかもっと発信していきたい。
法人の理念や園としての思い、子どもたちの思い、それを見守っている職員の思いなど、くり返し伝え、タイムリーに子どもの様子を伝えていきたい。

園　名　　ひなたの森保育園　　氏名　　廣澤麻美